

平成19年度
交通事故被害者サポート事業報告書

内閣府政策統括官（共生社会政策担当）

交通安全対策担当

まえがき

平成19年中の交通事故による死者数は5,744人であり、昭和二十八年以来五十四年ぶりに五千人台まで減少し、世界一安全な道路交通を実現するという政府目標に一步近づきました。しかしながら、国民の約百人に一人が交通事故により死傷するという厳しい状況が依然として続いております。

わが国の交通安全対策の長期的な施策の大綱である「交通安全基本計画」においては、8つの柱のひとつとして「被害者支援の推進」が挙げられ、自助グループの活動等に対する支援を始めとした交通事故被害者の支援の充実強化を図ることとしております。

新たな交通事故被害者が日々増加し続ける中、交通事故は、いつ我が身に振りかかってもおかしくない非常に身近な出来事と言えます。そして、ひとたび交通事故に遭遇すれば、被害者や遺族の方々は深い悲しみや辛い体験を長い間抱えながら生活することとなり、その回復には多方面からのきめ細かな支援が必要となりますが、未だ被害者支援の枠組みが十分に整備されているとは言えない状況にあります。

本事業は、国民が互いに支え合う、安全で安心できる交通社会を形成することを目的として実施してまいりました。

一人でも多くの交通事故被害者が回復に向け再び歩み出すことができるような土壌が醸成できれば幸いです。

最後に、本事業に御尽力いただいた委員の先生方や関係各位に、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。

平成20年3月

内閣府政策統括官(共生社会政策担当)付

参事官(交通安全対策担当)高橋 広幸

平成19年度

交通事故被害者サポート事業研究検討会 委員名簿

現 職 等	氏 名
常磐大学大学院被害者学研究科教授	座 長 富 田 信 穂
飲酒・ひき逃げ事犯に厳罰を求める 遺族・関係者全国連絡協議会 幹事	井 上 郁 美
社団法人 被害者支援都民センター理事・事務局長	大久保 恵美子
国立精神・神経センター精神保健研究所 成人精神保健部 犯罪被害者等支援研究室長	中 島 聡 美
内閣府政策統括官(共生社会政策担当)付 交通安全対策担当参事官	高 橋 広 幸

執筆者及び編者

本報告書の執筆者及び編者は、以下のとおりである。

【交通事故被害者サポート事業研究検討会委員】

富田 信穂	常磐大学大学院被害者学研究科教授
井上 郁美	飲酒・ひき逃げ事犯に厳罰を求める遺族・関係者全国連絡協議会 幹事
大久保 恵美子	(社)被害者支援都民センター理事・事務局長
中島 聡美	国立精神・神経センター精神保健研究所 成人精神保健部 犯罪被害者等支援研究室長
高橋 広幸	内閣府政策統括官(共生社会政策担当)付 参事官(交通安全対策担当)

【(社)被害者支援都民センター】

野崎 響子	犯罪被害相談員
-------	---------

【被害者支援センター】

社団法人	秋田被害者支援センター
社団法人	いばらき被害者支援センター
社団法人	被害者サポートセンターあいち
特定非営利活動法人	長崎被害者支援センター
特定非営利活動法人	大阪被害者支援アドボカシーセンター
特定非営利活動法人	石川被害者サポートセンター

目 次

第1章 平成19年度事業の概要	1
. 目的	1
. 事業の概要	1
第2章 パートナースhip事業	3
. 自助グループ連絡会議	3
1. 第1日目	3
2. 第2日目	4
. 各センターからの報告	7
1. 社団法人 いばらき被害者支援センター	7
2. 特定非営利活動法人 石川被害者サポートセンター	9
3. 社団法人 秋田被害者支援センター	11
4. 特定非営利活動法人 大阪被害者支援アドボカシーセンター	15
5. 社団法人 被害者サポートセンターあいち	17
6. 特定非営利活動法人 長崎被害者支援センター	21
. 本章のまとめ	25
第3章 スキルアップ事業各種相談窓口等意見交換事業	26
. 目的	26
. 概要	26
. 体制	26
. 意見交換会	28
1. 千葉における意見交換会	28
2. 熊本における意見交換会	30
3. 大阪における意見交換会	33
4. 宮城における意見交換会	35
. 問題点と改善策	36
. 本章のまとめ	37

第4章 スキルアップ事業教材開発事業	38
. 目的	38
. 事業内容	38
. DVDの作成について	39
. 本章のまとめ	41
第5章 総括	42
資料編	43
資料1 第8次交通安全基本計画より抜粋	45
資料2 交通事故被害者の実態とその支援について	47